

## 岡山県済世顧問制度創設100年の歴史

～「済世の心」岡山から未来へつなげよう～

岡山県民生委員児童委員協議会  
会長 高山 科子

大正3年の第一次世界大戦によって、国民は、生活困窮者を多く生み出した。

当時の岡山県知事笠井信一氏（静岡県出身）は官中で開催された地方長官会議の席で、大正天皇から「県下の貧しい人々の状況はどうか」とのご下問を受けた。知事はすぐに、県内の貧困者の実情を調査し、悲惨な生活状態にある者が県内の1割に達していることが判明。この事態の重大さに笠井知事は、研究を重ね、ドイツのエルバーフェルト市で行われていた「救貧委員制度」や、岡山市ですでに農村再生に取り組んでいた藤井誠一氏（幕末の農政家・二宮尊徳の報徳思想を軸に村の再生に奔走）の意見を参考にして、1917（大正6）年5月12日「済世顧問設置規定」を公布し、社会奉仕の精神にあふれる人材とともに、防貧活動に取り組み、民生委員制度の前進である済世顧問制度が誕生し、今日の民生委員の礎となりました。

## 岡山県慈愛と福祉の先駆者たち

1. 渡辺元一・・・生活困窮者のため医師の治療も受けられない人々のため無料で平等に診察した。（笠岡市・医師）  
高橋慈本・・・1914（大正3）年渡辺医師と共に境内に「悲眼院」を開設した。（笠岡市・僧侶）
2. 山本徳一・・・乳児の死亡率が高かった大正時代、先駆的な母子保健を展開した。（赤磐市・医師）
3. 清田寂坦・・・1919（大正8）年「津山施療院」を開設。境内のお堂を診療室にし、1947年に津山病院と名称変更するまで、地元の医師らが無報酬で診療した。（津山市・僧侶）
4. 石井十次・・・日本で最初の岡山孤児院を開設、医師を志して岡山へ来たが、孤児救済の道を選ぶ。「児童福祉の父」と称される。（宮崎県）
5. 山室軍平・・・児童保護、貧困者医療の発展に尽力。「地の塩 山室軍平」として映画化。（新見市）
6. 留岡幸助・・・東京巢鴨監獄の教誨師として、その中に家庭学校を創設。映画化。（高梁市）

歴史は繰り返すと申しますが、戦後70年過ぎ、いまだに貧困・虐待・教育・自然災害の増加等、大変な時代を迎えております。しかしこのような時代だからこそ、笠井信一氏が残されたお言葉「済世之心須如養花天」・済世の心すべからく花を養う天のごとくあるべし。つまり、天はどんな花にも分け隔てなく太陽の光や雨の恵みを与えてくれる。済世顧問も天のように困っている人に寄り添って欲しい。まさに天にありては星、地にありては花、人にありては愛。天・地・人なのです。

先人の教えを胸に刻み、皆さんの「済世の心」「慈愛の心」で地域の更なる発展につながり、平和な世の中を目指し、“我が事、”丸ごと、「地域共生社会」へつながっていきますようお願いいたします。